
フィッチ

東 風林

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フィッチ

【Nコード】

N4054C

【作者名】

東 風林

【あらすじ】

魂を捧げた者に取りつき、その魂を喰らい屍を操り、人を喰らいながらさ迷う『フィッチ』を退治し人を護る為に作られた組織『コンフゲイト』。その中で彼女達は色々な感情を抱きながら、一人一人でも多く救う為に世界を駆け巡っている。しかし、そこにはある問題が……

プロローグ

生温い風の中、一人の少女が静かに立っていた。
少女の前には血まみれの子供と、その傍に倒れている人間。…も
う、生きてはいないだろう。

子供は少女に気付くと、ガタガタと震え出した。

「まだ子供なのに……憐れな子」

哀しそうな声で呟き、少女は右手を子供の方に向ける。人差し指
にはめられた指輪に付いている宝石が黒く光った。

「もう…楽になるう？」

その声と同時に、宝石は音を発する。地に響くような音。子供は
突然、悲痛な声で叫び出す。

「あ、ああ、ああ…あああああああああ！」

身体が揺れ、紅い涙は滴り、しだいにその姿は何かと重なり、二
重になった。醜い姿をしたそのもう一つの影は、宝石の発する音に
吸われ、身体から離れて行く。

宝石がそれを吸い込み、音が止むと、子供は白目をむいてバタリ
と倒れた。

静寂が訪れる。少女は無言でその屍に背を向け、歩き出す。

何の音もない空間に、彼女の声が響いた。

「任務完了」

プロローグ（後書き）

初めまして、風林です。『フィッチ』プロローグ、お楽しみいただけましたでしょうか。まだわからない事だらけだと思えますが……本編はもっとドロドロしていく予定です。よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4054c/>

フィッチ

2010年12月8日02時20分発行